

平成23年2月議会 岡村精二一般質問

3月2日午前10時～登壇

自由民主党、宇部市選出の岡村精二です。

県議会議員として2期目、最後の議会で、一般質問のトップバッターとして登壇させて頂けることを光栄に思っています。

さて、宇部市常盤公園内で発生した高病原性鳥インフルエンザに対して、県ならびに県警は、迅速な対応をされ、県警機動隊、獣医師などを派遣するとともに、資機材を提供するなどの支援を行なって頂きました。

宇部市の処置は、やむ得ない適切なものであり、久保田市長も苦渋の選択をされたものと理解しています。

しかし、白鳥と慣れ親しんだ宇部市民にとっては、とても辛い出来事でした。

平成16年以来の鳥インフルエンザ発生ですが、改めて、県の危機管理能力を高く評価するとともに、県職員ならびに、県警職員のご労苦に対して、宇部市民の一人として厚くお礼申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

**最初に、児童福祉行政についてお尋ねいたします。**

最近、子どもたちが置かれている現状に、気になっていることがあります。

私は毎年、夏休みに4泊5日の「子ども自然体験キャンプ」を開催していますが、参加する子どもたちの5割近くが、母子家庭または父子家庭といった一人親家庭の子どもたちです。数年前、大分県の香々地少年自然の家で行ったキャンプでは、88名中54名が一人親家庭の子どもたちでした。

特に母子家庭の男の子の参加が多いのは、キャンプなどの体験学習を子どもにさせたいと願うお母さんの期待の現われかもしれません。

ある先生から「私の小学校では4割くらいが一人親家庭の子どもですよ」という話を伺ったこともあります。

離婚をするには、それぞれ辛い事情があるのだと思います。しかし、「子はかすがい」という言葉があります。何とか、離婚を食い止められないものでしょうか。子どもたちの笑顔を見ていると心が痛みます。

子ども自然体験キャンプでは、「親からの手紙を活用した研修」を行っています。

ある母子家庭のお母さんの手紙を紹介します。6年生の女の子が激しく泣いていたので、そばで一緒に手紙を読ませて頂きました。

「私が不甲斐無いから、お父さんと離婚してしまいました。悲しい思いをさせ

て、ごめんなさいね。夜の仕事に出るようになって、一人で私の帰りを待っているあなたのことを考えると、とても申し訳なく思っています。夜遅く、家に帰ると、その日の出来事や伝言を書いた、あなたからの手紙が階段のところに置いてありますね。あなたの文字を見ていると、いつも涙が出てきます。ごめんなさいね。お母さんにとって、あなたは大切な宝物、研修頑張ってるね。」と書かれていて、私も一緒に泣いてしまった思い出があります。

また、小学2年生の男の子は、感想文に「僕はお父さんが大大大好きです。でも、お母さんがいなくなって寂しいです。ぼくはお父さんとお母さんが仲直りをして、また一緒に暮らしたら、うれしいです。」と書いてあり、読んだ指導員が泣いていました。

このような現状の中で、子どもも親も多くの問題を抱えていると思われます。

**本題に戻りますが、宇部総合庁舎内に設置される中央児童相談所の駐在所についてお尋ねします。**

近年、児童虐待が増加するなか、山口県では的確に対応するため、県内に5箇所の児童相談所を設置しています。

地方交付税上、人口170万人の標準県で2箇所とされていることを考えますと、その箇所数は中国5県の中でもっとも多く、15歳未満人口当たりで見ると設置の割合も全国でトップクラスであり、充実した対応となっており高く評価するものです。

しかしながら、宇部・山陽小野田地区には児童相談所がなく、山陽小野田市からは、40キロ以上離れた山口市の中央児童相談所に頼らざるを得ません。

中央児童相談所の相談件数のうち、宇部・山陽小野田地区の件数は平成21年度358件で33%、そのうち虐待相談件数は50件で37%を占めています。

そこで県では、平成23年度より宇部総合庁舎内に中央児童相談所の駐在所を開設することですが、その規模と期待される効果についてお伺いいたします。

**次に、小規模住居型児童養育事業についてお尋ねいたします。**

さまざまな事情で、家庭で生活することができなくなった子どもには、家庭にかわる養育環境が必要です。

家庭で養育することが難しくなった子どもたちの多くが、乳児院や児童養護施設といった施設で生活しています。そのような子どもたちを、自らの家庭に迎えて、愛情と優しさをもって養育していく制度として里親があります。

「里親」とは児童福祉法上の制度で、「里親とは、保護者のいない児童又は保

護者に監護させることが不相当であると認められる児童を養育することを希望するものであって、都道府県知事が適当と認める者をいう」と定められています。

児童虐待の増加に伴い、乳児院や児童養護施設だけでは対応できない状況下  
にあり、里親制度の拡充が求められています。

そのような状況にあって、里親が規模を少し拡大して、家庭的な雰囲気を残  
したまま、養育していく制度として、小規模住居型児童養育事業、通称「ファミ  
リホーム」といわれる制度が注目されています。

専任の養育者の住居で、要保護児童5人ないし6人を受け入れ、一定期間養  
育をしていただく事業で、養育里親の経験など一定の要件を満たす養育者3人  
以上で養育にあたる制度です。

県内における小規模住居型児童養育事業に対する取組みと事業者に対する支  
援について、お伺いいたします。

**次に、児童福祉という観点から、子どもたちの携帯電話の所持についてお尋  
ねします。**

子どもたちを取り巻く社会環境の浄化は大きな課題です。

「川上がきれいになって、川下がきれいになる」という言葉がありますが、  
川上である大人が、まず子どもたちに対して、身を正さなければいけないのが、  
今の社会ではないでしょうか。

山口県青少年健全育成条例における有害図書の取り扱いについては、執行部  
のご努力により、全国的にも最も厳しい規制になりましたが、携帯電話の所持  
についても、強い規制が必要だと思えます。出会い系サイト、学校の裏サイト  
によるイジメ、また携帯電話のカメラによる撮影内容が恐喝の題材になってい  
る事例もあります。さらに、学力低下にも影響を与えていると考えます。

また、インターネットの普及、携帯電話所持の低年齢化が進み、子どもたち  
は「一人遊び」がさらに進展し、対人関係が苦手な子どもたちが増えている要  
因の一つともなっています。

子どもたちの携帯電話の所持を規制する青少年健全育成条例の新たな改正が  
必要ではないかと思われませんが、県のご所見をお伺いいたします。

**次に中山間地域における鳥獣被害対策についてお尋ねいたします。**

鳥獣は自然環境を構成する重要な要素の一つであり、国民の生活環境を保  
持・改善する上で欠くことのできない役割を果たしています。

しかしながら、近年、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等の生息分布域の  
拡大、中山間地域における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に

に伴い、鳥獣による農林水産業に係る被害は、中山間地域を中心に全国的に深刻化している状況にあり、また、一部の鳥獣による人身への被害も増加傾向にあります。

加えて、鳥獣による農林業等に係る被害は、農業者の営農意欲低下等を通じて、耕作放棄地の増加等をもたらし、これが更なる被害を招く悪循環を生じさせており、これらは、集落の崩壊にもつながり得ることから、直接的に被害額として数字に現れる以上の影響を及ぼしています。

先日、宇部市小野の2地区で、鳥獣被害に関する意見や要望をお聞きする機会がありました。

もっとも大きな影響を与えていると感じたのは、鳥獣被害が農業に対する生産意欲を失わせる要因となっているということでした。平日は宇部市の市街地に生活し、土日に小野に戻ってお米と野菜を作っている農家があります。

1週間ぶりに畑に行ってみると、サルがすべてを食べつくし、田はまるでサルが運動会でも行ったごとく、稲が尻ぎ倒され、コンバインはまったく入れない状況だったそうです。来年は米も野菜も、作ることを止めてしまおうかと考えていると語っておられました。

中山間地域では高齢化も進み、個人の力では、手の打ちようがないというのが実情です。

都会から嫁に来られたという女性が「お山に食べ物がなくなったから、里山に降りてきたサルもかわいそうですね」といわれたのが印象的でした。

山々には、杉やヒノキなどの針葉樹が植林されていますが、間伐がされていないことから、下草が生えず、土石流などの自然災害の原因の一つにもなっています。荒れた山々を見ると、鳥獣被害も人災ではないかと思われれます。

長期的にみると、間伐やドングリなどの広葉樹林の植林を積極的に行い、山を再生させる以外にないのかもしれない。

新たな取り組みとして副知事をトップとした庁内プロジェクトチームを立ち上げられ総合的な対策を検討され、来年度は鳥獣被害防止総合対策関連予算として、今年度の2.2倍となる4億5500万円を計上されていました。

被害額を平成21年度比3割減の5億円以下、捕獲頭数を同年度実績よりおおむね3から5割増のイノシシ1万5千頭、シカ2900頭、サル300頭とする数値目標を初めて設定されました。

そこで特に、サルについてお尋ねいたしますが、県内における群れの個数とその頭数、分布状況、また、サル被害に対する捕獲の具体的な対策をお伺いいたします。

特に、捕獲目標頭数におけるサルの300頭は、あまりに少ないように思われますが、ご見解をお聞かせ下さい。

また、サルに対する効果的な被害防止対策を実施するためには、個人を中心とした対応ではなく、鳥獣の行動域に対応して市町村等地域全体で取り組むことが必要であり、さらに、鳥獣は自然界で自由に行動することから、必要に応じて近接する複数の市町村が連携して広域的に対策を実施することが効果的であると思われます。

鳥獣被害対策モデル地区として、山口市仁保地区猿被害対策協議会では、これまでサルによる農作物被害を防ぐため、花火を使った追い払いや放置果実の除去活動、山口大学と連携したサル出没マップづくりなどに地域をあげて取り組んでいるとのこと。

仁保地区における成果をもとに、モデル地区を拡充し、それぞれの市町、地域の実情に合った対策を検討し、意見交換・連携も必要と思われますが、特に被害の大きいサルについて、今後どのように被害防止に取り組まれるのかお伺いいたします。

#### 次に**自然災害対策**について

まず、**渇水対策の取り組みについてお尋ねいたします。**

毎年のように、豪雨災害が続き、多くの県民が浸水・土石流などの甚大な被害を受けていますが、豪雨とは反対に渇水に対する対策も心配です。

最近では「平成6年渇水」といわれ、平成6年から翌年にかけて西日本から関東地方まで広域に渡り発生しました。

この年は、日本各地で春から少雨の傾向が続き、梅雨時期の降雨も平年の半分以下となり、さらに7月から8月にかけては記録的な高温の日々が続ки、西日本から関東地方までの多くの観測点において観測開始以来の最高気温を記録しています。晴天の日々が続き、多くの地域において降水量が平年の30から70パーセント程度にとどまりました。

このため特に九州北部、瀬戸内海沿岸、東海地方を中心とした地域の各地で上水道の供給が困難となり、時間指定断水などの給水制限が実施され、影響は1660万人におよび、農作物の被害は1409億円に達しました。

これまで、県では、洪水や渇水などの水に関わる諸課題に対して、治水と利水等に重点をおいて各種の施設整備が進められてきました。

その結果、台風や豪雨を中心とする風水害による人命喪失は減少し、また、各種の水利用に対する供給水量は増加して、需要水量の伸びが停滞していることと相まって、水需給は、全国的にほぼバランスがとれるようになってきたと思われます。

しかし、平成6年渇水にみられるように、一部の地域や時期・季節では渇水による水不足もなお深刻です。こうした現状に対応するための長期的な水資源

開発や水管理方策も検討することも大切ですが、渇水対策は広域に及び、中国5県、また西日本全域の県との連携が必要と思われま

す。そこでお尋ねいたしますが、給水車の確保、水資源の確保、他県との連携など、渇水時における県の取り組みについてお伺いいたします。

#### 次に、**自主防災組織についてお尋ねします。**

ニュージーランドにおける大震災など、多くの災害が全世界的に発生しています。人命救助は72時間を過ぎると存命率が急激に低下すると言われてい

ます。阪神・淡路大震災でも同じ状況下にありました。特に日本家屋は木造が多く、震災により発生した火災による犠牲者も多く出

ています。救命行為として最も有効だったのは、やはり近隣生活者による救出でした。

以来、地域コミュニティの大切さが見直され、山口県内でも、急速に自主防災組織が立ち上げられ、その訓練も充実度が増しているよう

です。今後は、継続的な防災意識の向上、専門的知識の向上が図られるべきと思われま

すが、県の取り組みについてお伺いいたします。

さて、私はかつて20代の頃、3年間、国内航路の1000トンクラスの油タンカーに、船員として乗船していました。全国の港湾に出入りしていた経験から**港湾整備事業について2点、質問します。**

#### まず、**岩国港築港200年記念事業についてお尋ねいたします。**

岩国港は、岩国市から和木町に跨る重要港湾であり、古くは奈良時代には周防東部における海上交通の要衝であったとされ、文禄の役1592年には豊臣秀吉もこの地で艦船を見たと言

われています。その後、1600年に吉川広家が今津川河口に物揚場を設置し、参勤交代や四国等との雑貨の搬出入などに広く利用させ、1720年代からは今津川河口を本拠地とする民間帆船により紙・米・塩等の輸送が盛んになり、近畿各地への海運の要地として栄えたとされています。

そして、今からちょうど200年前の1811年に、岩国藩の命により、現在の新港が築港され、海運に画期的な進展をもたらしたとされています。

以降、戦前まで海外移民乗船基地として、また、山陽本線開通後は、各種企業の立地によりさらに発展し、戦後においては、昭和27年に重要港湾に指定され、港湾計画の策定と、それに基づく本格的な港湾整備、石油コンビナートの完成などにより、貨物量は飛躍的に増大しました。

瀬戸内海臨海工業地帯の一翼を担う工業港として発展を続け、現在は、国内外からコンテナ船、一般貨物船や大型客船など様々な船舶が入港し、西瀬戸内

における代表的な内外貿易の流通拠点港湾としての役割を果たしているところ  
です。

本年は、新港築港から200年という大きな節目の年であることから、地元  
岩国市において、「岩国港築港200年記念事業」が行われることが決定されて  
います。

この事業は、岩国港の重要性を広く市民に周知することを目的として、岩国  
市を中心として、7月23日の記念式典をはじめ、各種記念事業を実施するこ  
ととされています。

本来、港湾は、物流の重要な位置を占め、我々の生活を支える不可欠な施設  
であるにも係らず、とかく港湾を利用する企業本位・住民不在との誤解を受け  
やすい面があります。

港湾とはどのような施設で、その果たす役割がいかなるものかを広く市民・  
県民に周知する必要があると、私は常々考えておりますが、その面で、今回の  
記念事業は大変意義深く、港湾管理者である県も是非、積極的な関与・支援を  
行うことが必要ではないかと考えますが、ご所見をお伺いします。

**次に、港湾整備事業に対する長期的戦略と、その取り組みについてお尋ねい  
たします。**

私は船乗り時代から「周防灘を一つの港と考えれば、アジアの中心的な物流  
基地になれる」という確信を持っています。

平成7年、阪神・淡路大震災により神戸港が甚大な被害を受け、その復興に多  
年を要しました。その間に、貨物の多くが韓国のプサン港を利用するようにな  
り、しかも国家政策として大規模な港湾整備を行ったため、今日ではプサン港  
はアジアのハブ港と呼ばれるまでに発展し、アジアから運ばれる貨物は、一旦  
プサン港に荷揚げされ、それから、日本の港に運ばれるという流通になってい  
るようです。

日本の生きる道は、生産基地としてのみならず、サービス、流通、情報の中  
心になることだと思えます。

幸い、山口県は瀬戸内海という天然の素晴らしい港を持ち、地震災害が少な  
く、大きな活断層もありません。また、山口市には情報の集積基地としての衛  
星アンテナもある安定した地盤です。

空港、新幹線、高速道路網も整備され、また航路的にも、山口から九州へ、  
神戸、大阪へ。そして、アジアからアメリカ、中南米への中継基地として、立  
地条件を十分備えています。

周防灘を1つの港と捉え、下関、小野田、宇部、三田尻中関、徳山下松、さ  
らには岩国港を、ガントリークレーンなどを備えた1つの岸壁と考えると、世

界一の物流基地になることも可能です。特に徳山下松港は、大きな河川もなく、全国有数の良港であります。

財政難しかも、国家的な事業ですが、経済が疲弊している時代だからこそ、大きな夢をと思います。

山口県の港湾整備に対する長期的な戦略と取り組みについてお伺いします。

### 最後に、山口県の観光行政についてお尋ねします。

山口県は、気候が温暖で、風水害や地震も比較的少なく、また約1500キロメートルに及ぶ長い海岸線を持つ海は、穏やかな多島海美の「瀬戸内海」と、荒々しい浸食海岸美の「日本海」という異なった表情を持っており、北と南で鮮やかなコントラストを見せています。

中国山地の西端に位置する緑の山々は、その懐に、我が国最大のカルスト台地と鍾乳洞を持つ「秋吉台国定公園」、原生林と渓谷美の「西中国山地国定公園」などの景勝地を抱き、四季折々に変化に富んだ顔を見せ、老後の定住地として、最高の県だと、私は誇りと自信を持っています。

私は若い頃から旅行が好きで、国内の観光地は、ほとんど見て回りましたが、全国的にも見ても、山口県ほど観光資源に恵まれた県はありません。

『灯台もと暗し』ではありませんが、山口県民はそのことを強く認識し、誇りを持ってほしいと願っています。

須佐ホルンフェルスの規則正しい縞模様は大自然の芸術であり、高さ50メートルの断崖は、学術的にも貴重で珍しい大断層面を持っています。

青海島は日本海に侵食された洞窟、石柱、洞門などの巨岩や奇石が豊富にあり、断崖絶壁は高さ100mにおよび「海上アルプス」と呼ばれています。

ロッククライミングの好きな人が見れば、きっと、一度は挑戦したくなる絶壁です。スキューバで潜ったことがあります。透明度もよく、絶好のダイビングスポットです。

秋吉台の2月の山焼きは、素晴らしい夜景も見せてくれます。秋芳洞は東洋一の大鍾乳洞であり、錦帯橋は匠の伝統美を見せ、常盤公園は西日本最大級の総合公園です。

萩市は歴史文化に恵まれ、吉田松陰、久坂玄瑞、高杉晋作といった人物は大きな魅力です。

松下村塾を初めとする数多くの寺子屋は、教育水準の高さと底辺を広げ、多くの人材を輩出し、長州藩は明治維新を推進する中心的な存在となりました。

「山口県では大人が3人集まれば、政治の話が始める」という政治風土もまた、山口県の魅力と思われれます。

全国有数の素晴らしい観光資源を活かす施策が必要だと思われれますが、その

有効活用と観光人口増加のための取り組みについてお伺いいたします。

また、恵まれた観光資源を活用した、たとえば青海島カヌー体験、ロッククライミング、鍾乳洞を活用した高度な洞窟探検、山口県一周OBS研修など若者向けの体験型観光への取り組みも必要と思われませんが、ご見解をお伺いいたします。

最後に要望ですが、観光客誘致としてNHKの大河ドラマの題材として「高杉晋作」をNHKに売り込んではいかがでしょうか。

吉田松陰先生は少し真面目過ぎて、大衆受けしにくいかもしれませんが、高杉晋作は、奇兵隊、女性との関わり、三味線、そして何より、生き様が魅力です。古川薫原作、山田洋二監督なら、最高の人気番組になりそうな予感がします。NHKの朝のドラマなら「田中絹代さん」が如何でしょうか。

以上で、一般質問を終わらせて頂きます。

ご静聴、ありがとうございました。